

【参考資料】

■ 製品の製造販売を行う企業 A 社の事例

「WEB オーダーシステム」で、販売店からの受注業務の処理にかかる作業時間を **30%削減**。作業人員を 8 名から 4 名体制へ変更を実現し、繁忙期にも強い物流システムを構築。

日本国内 300 店舗の販売店をはじめ、コンビニエンスストアや百貨店など、多くのチャネル展開を行う企業 A 社の商品は、商品本体の他に、パッケージや包装紙、イベントシーズンになるとリボンや手提げ袋などが必要となる。そして、これらは倉庫で別々に管理している。

販売店などのチャネルから商品の発注を受けると、倉庫内で包装までを行い店舗へ配送。その他に必要な装飾類や手提げ袋は、異なる別のサプライヤーから必要数を調達し、それぞれの倉庫から店舗に届けている。サプライヤーは 12 社に渡り、受発注業務は非常に複雑で正確性が求められていた。

「WEB オーダーシステム」の導入は、これまでは別の管理下だった販売店舗を A 社が管理することとなり、その数は従来の 2 倍になったことを受けて導入。それまでは各店舗のオーダーを「受注センター」にすべて集約し、そこから本部の担当者が人力で各サプライヤーに発注業務を行うという方法だった。

実際に「WEB オーダーシステム」を使った評価

A 社の担当① シーズンの繁忙期に間に合うよう「WEB オーダーシステム」を導入しました。「WEB オーダーシステム」で、複雑な物流の受発注を俯瞰的に見ることができたので、本部としては大きな成果だと思っています。

A 社の担当② マニュアルを作成して各店舗に渡してテスト環境で練習してから本番に移りましたので、その練習中や導入当初にいくつか質問がありましたが、大きな抵抗感はなかったと記憶しています。何よりも本部で行っていた発注業務が不要となり、担当者が 8 人から 4 人になりました。通常の 3 倍となるシーズンのピーク時に、導入当初から貢献してくれるシステムです。

A 社の担当③ 「WEB オーダーシステム」は当社とサプライヤーさんをつなぐだけでなく、一部運送業者さんとも共有して使用しています。これによって、店舗からの発注と同時に運送便の手配が可能になって、配送車や人員の確保などリアルタイムで行えます。